

第26回SEA教育ワークショップ2012

テーマ:明日の時代を担う人材育成の基盤システム、技術者教育を議論する!

主催:ソフトウェア技術者協会(SEA)

運営:教育分科会(SIGEDU)

実施報告書

1. 開催概要

私たちソフトウェア技術者協会教育分科会では、わが国をはじめ、グローバルな情報通信社会におけるソフトウェア技術者、情報処理技術者をはじめ、広く一般の人材育成、教育について、官民、産学を問わず、各方面の方々と共に考察、検討を継続しております。

昨今の世界経済の混乱や国内外の政治や社会に対する不安、原発事故による生活圏の安全への脅威など、私たちを取り巻く環境は依然として先行き不透明、課題山積の状態が続いています。こうした中で、安心安全、かつ創造的な明日の未来を次世代に受け渡すためには、強力なリーダーシップを発揮して組織や社会をリードする人材は勿論のこと、トップレベルのハイパフォーマンス技術者を着実に、効率的に育成していくこと、またそれを可能とする基盤を社会に築いていくことが私たち教育に携わるものに求められているのではないのでしょうか。

運営は第25回と同じく、実行委員長を牧野憲一(バルトソフトウェア)、プログラム委員長を米島博司(パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ)の迷コンビが担当しました。会場の選定にあたっては、関東と九州の中間点に近い近畿地方の中から、交通の便が良く、過去に開催実績がなく、会議室を含む研修パックが利用できることを条件にして決定しました。

初参加が1名、あとは常連で合わせて10名の方に参加していただきました。夕食後も22時まで会議室でセッションを継続し、その後は部屋に移動して24時過ぎまでの激論となるのは恒例ですが、それでももっと時間が欲しいとの雰囲気でした。(まきの)

2. 日程

2012年10月25日(木)PM~10月27日(土)AM

3. 会場

おごと温泉 “湯の宿 木もれび”

〒520-0102 滋賀県大津市苗鹿 2-30-1 <http://www.komolebi.jp/>

4. 参加者一覧

氏名	会社・大学	所属・役職
山崎 進	北九州市立大学	国際環境工学部 講師
米島 博司	パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ	代表
君島 浩	教育設計研究室	シニア教育デザイナー
森泉 清	リコーテクノシステムズ(株)	経営統括本部 経営センター CS 推進部
牧野 憲一	バルトソフトウェア(株)	大阪開発室 業務革新マネージャー
鈴木 克明	熊本大学	大学院教授システム学専攻 教授
中山 照章	(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ	ビジネスマネジメント本部総務部 専任部長
廣重 法道	九州大学	大学院システム情報科学府 情報知能工学専攻 社会情報システム工学コース 学術研究員
内田 実	LBS 研究スタジオ	代表
井ノ上 憲司	熊本大学	大学院教授システム学専攻 特定事業研究員

実行委員長	: 牧野 憲一	バルトソフトウェア(株)
プログラム委員長	: 米島 博司	パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ



”木もれび“玄関にて記念撮影

5. プログラム

(分)

月日	時刻	時間	セッション内容	発表者(担当者)
10月25日	13:00	0:30	現地集合<集合場所>湯の宿 木もれびにて	-
	13:30	0:45	オリエンテーション、自己紹介、Session調整	-
	14:15		第1部	
	14:15	0:55	発表1「教育統治の現状と展望」	君島 浩(教育設計研究室)
	15:10	0:55	発表2「UMLモデリング教育」	山崎 進(北九州市立大学)
	16:05	0:10	休憩	-
	16:15	0:55	発表3「ゲームニクスを用いたLMSインターフェースの研究」	井ノ上 憲司(熊本大学大学院)
	17:10	0:50	入浴・休憩	-
	18:00	2:00	夕食(懇親会)	-
	20:00	2:00	オフレコセッション(1)	井ノ上 憲司
月日	時刻	時間	セッション内容	発表者(担当者)
10月26日	8:00	1:00	朝食	-
	9:00		第2部	
	9:00	1:00	発表4「PBL(Project Based Learning)のコミュニケーション分析」	廣重 法道(九州大学)
	10:00	1:00	発表5「ポートフォリオ導入に向けて教員啓発活動」	鈴木 克明(熊本大学大学院)
	11:00	0:10	休憩	-
	11:10	0:50	発表6「若手エンジニアの自主性創出」	牧野 憲一(バルトソフトウェア(株))
	12:00	0:15	移動(ホテル送迎バス)	-
	12:15	2:15	昼食とリクリエーション(坂本散策)	-
	14:30	0:15	移動(ホテル送迎バス)	-
	14:45		第3部	
	14:45	1:00	発表9「JICA 公募への応募落選報告(ルワンダでの教育、職業訓練企画調査員)」	内田 実(LBS研究スタジオ)
	15:45	1:00	発表8「技術系経営者の育成」	森泉 清(リコー・テクノシステムズ(株))
	16:45	1:15	入浴・休憩	-
	18:00	2:00	夕食(懇親会)	-
	20:00	2:00	オフレコセッション(2)	森泉 清
月日	時刻	時間	セッション内容	発表者(担当者)
10月27日	8:00	1:00	朝食	-
	9:00		第4部	
	9:00	1:00	発表7「企業におけるイノベーション教育」	中山 照章((株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ)
	10:00	0:10	休憩	-
	10:10	0:50	発表10「ISDIにおける分析フェーズの保証について」	米島 博司(パフォーマンス・インブルーメント・アソシエイツ)
	11:00	0:50	フィードバックセッション	発表時に出されたコメントの反映を確認します。(希望者)
	11:50	0:10	総括、SIGEDU活動紹介	-
	12:00		解散	-

6. 参加者感想(敬称省略、発表順)

■ 君島 浩(教育設計研究所)

宿泊したホテルへの私の評価は、温泉浴場○、食事○、従業員○、会議室○でした。歴代の上位3~5位以内に入ると思います。夕食がほかの客と一緒に椅子式部屋だった点が惜しかったです。

毎回、ワークショップ発表のトップバッターの私は、教育委員会制度の日米比較と改善案を発表しました。

コメントとして鈴木先生から「大森不二雄先生(本拠を熊本大学から首都大学東京へ移動)が橋下徹市長の所の教育委員になった。統治は役所の機能であって、校長のマネジメントは PDCA サイクルだから違う、と話していた」と教わりました。私の「統治」は英語 wikipedia のとおり政府政治から企業や学校の間管理まで含む統一用語のつもりです。PDCA サイクルには横型だけではなく、階層の上下の縦型もある、というのは私や明治大学の阪井先生の意見であり、あまり知られていません。私も静岡県や三島市へ接触を図っていますが、私のような無名人の声は聴いてくれません。



森泉さんから「リコーテクノシステムズの教育統治の建て直しを考えている」と発言がありました。私なら ISO9001 品質保証のように、経営者が教育課程をルールとして規定し、年度末に教育実績報告を了承するという形の教育統治が最善・無比と信じています。しかし、ほとんどの会社はこういう効果の明確ではない建て直しの価値を理解できずに、根拠なしに制度をいじり続けるだろうと思います。

山崎先生から「北九州市立大学の教員育成(FD)の統治をどうしたらいいか考えている」という発言がありました。FDの制度をどうするかも同じ考えでできます。従来やられてきた学生による授業評価などはFDではありません。教員育成とは関係のない当たり前の教育業務です。FDをちゃんと統治するなら、学長が事務職員を含めた大学職員課程をルールにすることが根拠あるやり方です。授業評価がいかにFDと関係ないかを理解してもらうために、山崎先生へは後日、私が筑波大学のために作った教育関連法規解説書、教育試験手引書、科目記述手引書、教育方略集などを送りました。

山崎先生の「UML モデリング教育」は、論点がたくさんあって議論が大変でした。講座の内容が、UML の能書きなどはそこそこに、本論や演習に着手するという点や「近頃の若者は」という上から目線が抑制されている感じには、好感が持てました。気になるのは「一つの課題の UML の正解には複数あって、優劣がある」という点が、ワークショップで議論しても、すっきりしないことです。

山崎先生の「UML モデリング教育」は、論点がたくさんあって議論が大変でした。講座の内容が、UML の能書きなどはそこそこに、本論や演習に着手するという点や「近頃の若者は」という上から目線が抑制されている感じには、好感が持てました。気になるのは「一つの課題の UML の正解には複数あって、優劣がある」という点が、ワークショップで議論しても、すっきりしないことです。

言語を習っても、設計技法を習っても、アルゴリズムを習っても、新たな機能仕様書をもらって、内部設計をすらすらできるとは限りません。教育している設計技法が足りないのか、演習課題の網羅性や回数が足りないのか、実務について先輩の作品を見習ったり、設計書をレビューしてもらったりして修得するのでしょうか。「設計できないのは学生が悪いからだ」とは言い切れないと思うからです。

山崎先生は大学でキャリア教育にも関係しているそうです。キャリア論には学術的な根拠あるものがありますが、日本ではほとんど知られておらず、自分探し教育にとどまりがちです。根拠ある方法の一つは、勤と経験とで自分の希望のキャリアを三つぐらい挙げて、チャンス・リスク分析をする技法です。もう一つは、先輩のキャリア事例を、先行特許・先行論文調査のように統計的・流れ図的に分析する技法です。

井ノ上さんの「ゲームニクスを用いたインターフェースの研究」は、遊戯ゲームと教育ゲームとの違い、教育基本ツールとID ツールとの線引き、先行技術との差異など、多岐に渡るコメントが出ました。しかし、肝心

なのは先行技術を超えるアイデアや仮説が相当あるかどうか、今一つ不安なままだということだと感じました。井ノ上さんへは後日、私が筑波大学のために教育試験手引書を送りました。これは Moodle やその取扱説明書が分かりにくいので、教員用語の説明によって Moodle の試験機能を使えるようにしたことと、ツール側の操作方法説明ではなく、ID 側の試験出題・採点の技法を記載したことが、井ノ上さんに参考になるかと思ったからです。

廣重さんの「Project Based Learning のコミュニケーション分析」は、コミュニケーションを叙述的に分析するのではなく、二つの種類の分類モデルに照らして分析している点に根拠があると思いました。ただし、言語に関する分類モデルには、ほかにも有力候補がある、というような意味のコメントを私は言いました。例えば、医療チームや自衛隊などの提言 (assertion)・主張 (advocacy) というモデルや、アカデミックライティングの話題文・補足文の分類などです。一回の PBL はプロジェクトのテーマや一人のメンバの担当範囲などが、プロジェクト管理の全体ノウハウの一部に過ぎないので、到達目標を「プロジェクト活動ができるようになる」と書いたら過大広告です。コミュニケーション分析は、これだけは到達度を確認した、と言える基礎的分析ですから、まじめな研究の仕方だと思います。

鈴木先生の「ICT 利用のサンドイッチモデル」の事例は、ポートフォリオ、FD/SD/ED などをカバーしています。例えば、ポートフォリオ(作品集)は応用課題を扱い、LMS は基礎知識の試験を担当するなどです。ポートフォリオの ICT 支援は、鈴木先生が言われたように、提案ばかりで成功事例の報告が乏しいです。ポートフォリオという片仮名を用いるのが敬遠される点の一つです。美術大学のように作品と呼べばよいと思います。

牧野さんの「若手エンジニアの自主性創出」は小規模企業における人事教育の悩みの紹介でした。私が発表した教育行政の改善の4ステップが企業にも使えます。

第1段階 読む(check)

- 人事台帳・人事 DB を経営者が読む。一人一人の社員の細かな成果評価をしながら、トップが人事データの大筋を把握しないのは日本企業の変な点である。昇級の速い社員、遅い社員などの全体像を眺めることが、社員の退職までの経歴を議論できるようになる前提である。
- 就業規則(人事系規則)を経営者や管理職が読む。一般社員へ概説してもよい。なければ親会社の規則を読む。職級や職種の意味に関心を持つようになるはずだ。
- 現状の教育課程を読む。就業規則は全職種・全職級をカバーしているのに、教育課程は技術教育に偏重しているだろう。「就業規則に似た」全職級・全職種をカバーする文章主体のルールにするのが、ISO9001 的な経営・管理の出発点だ。これは親会社にもないと思う。私が勤務した自衛隊の教育訓練の規則書が手本になる。

若手社員が創造活動に積極的でないという悩みに対して、ワークショップでは「残業を解消しないと無理だ」などの意見が多かった。私は富士通の残業時間が最多だった時代に、特許や学協会発表が増えていったことを経験した時のノウハウを発言した。特許なら各プロジェクトの日程を具体的に把握して、出荷前に出願手続きを済ませるように推進すればよい。学協会発表ならば、出荷・特許出願後の適時の学協会行事を目指して、発表者を決めればよい。若手社員は発表ではなくて、先輩に同行することから始めてもよい。

なお、若手社員や大学生の引っ込み思案をなくさせるには、次のような手段がある。

- 自動体外式除細動器 AED の講習を受けさせる。「その人、手伝ってください」と発言すると恥ずかしい思いが吹っ切れる。入社3年目の社員が講習指導員になると更によい。
- 桜美林大学先生の高橋真義の自己表現・評価トレーニング (SHINGI メソッド) のような自己紹介・他己紹介・発表技法の教育をする。思いきって前向きに話すようにさせ、高橋先生は心を込めて

褒める。恥ずかしがったら「恥ずかしがるのも立派な能力だ」と褒める。私も山梨大学で発表技法の講義をしているが、褒めて指導する。初心者が下手なのは当たり前で、上手にするのは教員の責任だからだ。

- 医療チーム作業技法 TeamSTEPPS のように、上司からの命令と部下からの提言・主張を組み合わせた技法の教育。私は筑波大学附属病院と水戸協同病院で行った。

この後の発表に対して、あまりメモを残していませんでした。記憶に残っているのは、米島さんの「ISD における分析フェーズの保証について」です。「教育を受講してみて、ニーズと違うのがあったりする」という話しについて、発言し忘れたことがあります。薬、歯磨き剤、シャンプー、化粧品などは薬事法を破ると処罰されます。初等・中等教育には教員免許が必要です。しかし、企業や教育会社が何を教えようが、どこの役所も規制しません。私はフリーの講師による心理学の社会人向け授業を参観して、大学では絶対に教えないような似非科学を教えているのを目撃しました。この手の危ない人ほど教育商売に集まりやすいので恐いです。

分析フェーズの保証については、私の意見は身も蓋もないですが次のとおりです。

- 富士通ラーニングメディアでは、講座の企画書は書式が決まっています、上司がハンコを押す欄がある。ISD の手引書がある。学習目標や修了条件も書かせるからチェックできる。NTT データラーニングなども同じだろう。
- 海上自衛隊では上位規則で、課程の分析者は海上幕僚長、課目の分析者は学校長と規定されている。起案は幕僚監部教育課や学校の教官・教官室長がやるが、起案書には海上幕僚長や学校長がハンコを押す。ISD の手引書がある。

米島さんの発表は ISD の分析技法の説明が中心で、組織としての話がありません。インストラクショナルマネジメントとして、組織としての制度を定めることが必要でしょう

■山崎 進(北九州市立大学)



今回で2回目の参加となりました。そもそも昨年初めて参加するきっかけになったのは、プログラム委員長の米島さんとFacebookで知り合って意気投合してのこと。あれから1年経ってしまったのですね。

今回の会場となった、おごと温泉「湯の宿 木もれび」は食事も湯も大変素晴らしかったです。中日に催された鶴喜そばでの食事も美味でしたし、日吉大社での散策も厳かで気が引き締まりました。改めて実行委員長の牧野さんの高い幹事能力に尊敬の念を抱きました。もちろん

議論の方も実に濃密で刺激的でした。私の教育実践についても貴重な意見をいただきましたし、他の方々が提供した話題も大変興味深かったです。初日こそ早々に寝ましたが、中日は夢中になって深夜遅くまでさまざまな話題について議論をしました。参加者の皆様には改めて御礼申し上げます。

▶ ワークショップの意義

ソフトウェア工学とインストラクショナル・デザインの両方に興味関心をもつ実践家が一堂に会すること、それだけで私には大きな意義があります。自信作を鈴木先生にバツバツと切られ、あまりの切れ味の鋭さに惚れ惚れしてしまうこともこのワークショップの醍醐味の1つです。このワークショップに参加

すると、インストラクショナル・デザインという言葉を知らなくても、ソフトウェア教育に対する熱意さえあれば、インストラクショナル・デザインの魅力の虜になるでしょう。

▶ 将来に向けて

まずは自分の身に降りかかっているさまざまな課題を何とかしなければならぬので、あまり大それたことは言えないのですが、今一番やりたいことは、ソフトウェア開発について、かたっぱしからひたすらインストラクショナル・デザインして教材を開発していくことです。迷っている場合ではありません。私の生きる道はこれしかないのです。そう決意した3日間でした。

■井ノ上 憲司(熊本大学)

ワークショップ参加は昨年に続き連続 2 回、通算 3 回目です、いつも通りのパワフルなメンバーの皆様とお会いして、SIG-EDU の楽しさを実感できる会でした。今回も前回に引き続き、ゲームニクスによる大学教員向け LMS インタフェースのお話をいたしました。前回に引き続き研究の本質にも迫るご質問、問いかけが多々あり、自分自身の研究を見直す大変有意義な機会となりました。



今回の発表ではゲームニクスを用いたインターフェースと e ラーニング初心者教員が実際に使うことを想定したペルソナ(利用者像)、そして、直感的、使いやすいから、はまるための方略について話しました。しかしながら、今の発表では、自分の目指している e ラーニングを使いこなすことのすばらしさが伝わらないことや、ID 的視点が足りないことを痛感させられ、操作性の向上に関与する以上のゲーム的な要素(パラメータ化、レベルアップなど)は本当に必要なのか? などについてもご意見をいただき、これから議論を踏まえて補強をしていきたい所存です。またオープンなコミュニティや学生などのソフトウェア評価での活用などについてもご意見をいただきました。

ID を使いこなす教員を目指し、e ラーニングをやったことがない教員が成長していく姿を夢見ながら、それを実現するユーザインタフェースを考えようと思います。今後のためになる、様々なご意見頂きましてありがとうございました。またよろしく願います。

■廣重 法道(九州大学)



・今回初めて参加しましたが、全体として非常に良かったです。一種のカルチャーショックを受けた感じです。
・教育は、体系化されている、つまり、教育工学なるものがあることを認識しました。なにを教えるか、という教育目標を最初に明確にし、それに向かって、教材やカリキュラム構成を組み立てるということは、これまであまり考えていなかったもので、今後考慮したいと考えています。
・ただ、大学院レベルであれば、分野が細分化されているため、共通の目標を立てるのは難しい。そこで、私達

教員が提供できるのは、「場」の提供とも感じています。そのギャップをどのように埋めていくか、考えたいと思います。

・今回発表した、コミュニケーション分析については、学生の主観評価を取り入れては、という有効なアドバイスをうけました。具体的な実施方法を考えてみます。

■鈴木 克明(熊本大学)

楽しく激しい(昼も夜も)2日間を過ごせたことに感謝します。昨年に引き続き最終日の午前を早退したことが悔やまれます。

私自身の発表については、「タイトル未定」が登壇時刻まで続き、「今日は紹介したいことが2つあるので、聴きながら最終タイトルを考えてください」というスタートとなりました。こんな私を寛容にも受け入れていただいた参加者各位に改めて感謝します。

発表内容は、大学教育は講義と最終試験をやめる方向で ICT を使い、ポートフォリオと LMS で応用と基礎を挟み込むという方向性をまとめた「サンドイッチモデル」の提案と、それを実現するためにワークショップなどで取り組んでいる「大学授業設計の点検表」でした。前者は鈴木・根本(2012)に、後者は根本・鈴木(2012)にて学会発表済みの内容で、詳細は参考文献にあります(「ID ポータル」に登録済み、そこからアクセス可能です)。「点検表」そのものは学会発表の抄録に含まれていないので、別に PDF ファイルをお届けします。この PDF ファイルは、ワークショップを早退して駆けつけた岐阜大学における医学系のワークショップ(<http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/seminarworkshop/2012/46th/index.html>)で使ったバージョンです。

ポートフォリオは大学教育のみでなく、企業内教育でも取り組んだプロジェクトを累積して評価につなげる時に有用である。この指摘がとても新鮮でした。来年に参加するときには何をもち寄るか、それを考えながらこの1年を過ごしたいと思っています。

参考文献

鈴木 克明・根本 淳子(2012.9)「大学教育 ICT 利用サンドイッチモデルの提案-ポートフォリオは応用課題に、LMS は基礎知識に-」日本教育工学会第 28 回全国大会(長崎大学)発表論文集 969-970

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/jset2012ksuzuki969-970.pdf>

根本 淳子・鈴木 克明(2012.9)「FD ワークワークショップ実践報告-デザイン力向上の支援を目指して-」日本教育工学会第 28 回全国大会(長崎大学)発表論文集 967-968

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/jset2012nemoto967-968.pdf>

■牧野 憲一(バルトソフトウェア株式会社) 実行委員長

今年は“若手技術者の自主性創出”というテーマでした。うまくいきましたとの事例ではなく、うまくいくためにはどうすれば良いのかをアドバイスしていただきたいとの思いです。また、若手としていますが、ベテランだって同じことです。大学関係者だったら“学生”と置き換えていただければよいかと思ひます。おかれている環境がそれぞれ異なるので、ぴたりとあてはまるアドバイスが難しいのは承知の上です



が、良きアドバイスがあれば引き続きお願いします。



公式セッション外の議論で恐縮なんですが、山崎先生と“コンピューターの動作原理とソフトウェアの関係”をどのように学生に指導するかで盛り上がりました。キーワードが色々あって、OS、レイヤー、アプリケーションというソフトウェア寄りの切り口と、CPU、クロック、命令コード、フェッチといった、かなりハードウェア寄りの部分に分かれます。私なりの意見も述べさせていただきましたが、これらを組み合わせた教材を作成したいとのことだったので、大

いに期待しています。組込みソフトウェア技術者への教育では必須だと思っているので、たとえ完成しなくても出来上がった部分だけでも活用したいと思っています。よろしくお願いします。今年はこの情報を得ただけで十分満足です。オフレコの一部を公開しちゃってすみません m(_)_m

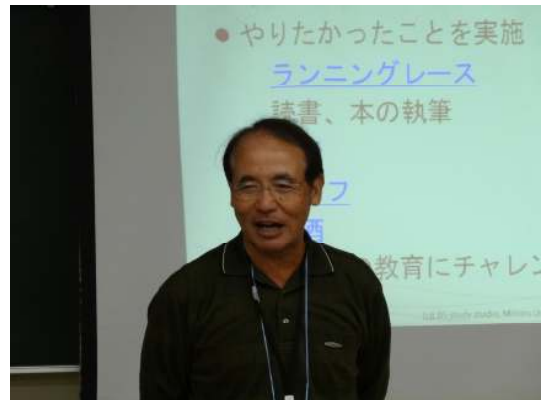
■内田 実(LBS研究スタジオ)

久しぶりに理論的な話を聞き、議論ができて、私には非常に為になりました。付き合いが居酒屋ぐらいになる年金暮らしでは、馬鹿話はしても、論理的な話はしません。ましてや教育の話など出てきません。もし、そんな話をし始めたら居酒屋から叩き出されてしまう。本当に久しぶりのことでした。

私の発表した「JICA 公募への応募落選報告(ルワンダでの教育、職業訓練企画調査員)」についても、有益な指導や助言をいただき、ありがとうございました。また、自分にあった公募があれば、JICA に限らずトライしてみたいと思います。その時は、また、ご助言をいただければ幸いです。

また、このWSは「人生」について考えさせられる契機にもなりました。ナイトセッションで少し話したのですが、身近な人の急逝が重なっています。WSの前週10/20にある人に会う約束があったのですが、その日に入院が決まったということで会いに行きませんでした。WSから帰って次の日(10/28)に、逝ってしまったと家族から連絡がありました。61歳、癌でした。もう葬式でしか会うことができません。私もやりたいことをしっかりやって、死ぬまで元気で、いつ亡くなっても良いようにしたいと考えています。

なお、ナイトセッションでこんな話をされていて、つい声が大きくなったようです。同じ部屋で寝ていた人、ご迷惑をおかけしました。



■森泉 清(リコーテクノシステムズ株式会社)

第26回 SEA教育ワークショップ2012企画運営ありがとうございました。ためになる有意義な時間を過ごすことができました。

5年ぶりに教育を担当することになり教育の統治のあるべき姿を模索している時でもあり君島さんのアメリカと日本の教育統治発表は非常に参考になりました。また、経営者の育成で内省が非常に効果があることが各種研修や書籍で紹介されており、現在企画中の案を皆さんに検討頂ありがとうございました。



ご報告致します。

また、今回発表事例の中でもディスカッションやリフレクションが学習効果を高める事例があり心強くすることができました。しかし、研修成果をどのように評価するかが模索中の段階です。本来私達の研修会のポリシーでもある研修成果を決めてからコース設計に入るべきところをマネジャーとしてのアート面を引き出すとのチャレンジの「これ」と決定した目標値がありません。マネジャー個々のチャレンジ目標の引き出しと達成度を観測する気の長い評価になりそうです。今回の結果は来年の事例で

■中山 照章(株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ)



最初から最後まで大変気持ちのよい楽しいWSでした。久しぶり(1年ぶり)に皆さんと再会し、時間を気にしないで、ゆっくりした雰囲気意見交換できました。これは、企画から、計画、下見や予約、交渉、WSの進行まで着実にやっていただいた実行委員長のおかげです。ありがとうございました。

自分の発表は準備不足で中身の薄いものになってしまいましたが、スタンフォード大学の実際の講義スタイルに興味を持っていただけたら嬉しいです。発表では伝えられなかった素晴らしい考え方ややり方がたくさんありますので、まだ購入していない方は是非「スタンフォード白熱教室」のDVDを購入して研究してください。講義の内容も面白いですが、講義スタイルや講義ツールが大変参考になります。

DVDには小さなブックレットがつき、講義内容がまとめられていて参考になりますが、私としては、せっかく吹き替え用の台本まで作っているのだから、その台本まで付けて欲しかったです。そうすれば、どのように進めているのかもっと短時間に分析できます。他人の講義を見て分析することはなかなか難しいと思いますが、このようにDVDに記録されているものを使えば繰り返し見て詳細に分析できます。このDVDはそれに耐えられる内容だと思います。

発表後のディスカッションで、「スタンフォード大学の学生だからこのようなレベルの講義ができるが、日本の学生ではこうはいかない」というご意見がありました。当然予想される反応なのでさらにディスカッションしたかったのですが、準備不足で反論できず、大変残念でした。なお、ティナ・シーリグは大阪大学で同じ内容で2日間の講義を行っていますが、スタンフォードの学生に劣らない成果でした。そのDVDも出版されています。

WSでは、それぞれのポジションでバリバリ活躍されている皆様の最新の課題に関する発表と本気のディスカッションに触発されることがたくさんありました。これからの自分の仕事や生活を変えていくネタを仕込ませていただきました。

ありがとうございました。来年も是非参加したいと思います。

■米島 博司(パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ) プログラム委員長

9月に定年退職してから、フリーランス(別名ぷうたろう)としてのワークショップ初参加でした。発表すべき事例はありませんでしたが、CRI の簡易版マニュアルは作らないと行けないと思っていたので、



ドラフトがてら分析フェーズの思い出しをしてみました。

参加者10名、うち1名は昨年と同様、Facebook つながりの参加となる廣重さんで、Facebook の威力をあらためて感じることとなりました。他の9人も常連メンバーとは言え、毎回新たな試みや新発見があるのは驚きとも言える喜びです。また来年も必ず参加して、研究、実践の報告をしようとの決意を新たにしました。

開催に向けて実行委員長の牧野さんには木目の細かい手配をしていただきながら、プログラム委員長として一緒に準備を重ねてきました。開催地は、地名の問題はともかくとして、風光明媚な琵琶湖畔で、比叡山の麓、良質の温泉、行き届いたサービスの旅館と、開催地要素のすべての点で過去開催地のトップスリーに入ると思われるレベルの高いところだったと思います。会議室の雰囲気も良かったですね。もう一度やっても良いと思うくらいの場所でした。また来年も常連メンバー、新たなメンバーの参加を期待して集まりましょう。開催地も瀬戸内海、実行委員長も引き続き牧野さんということで、ほぼ体制も決まったことだし、さらに内容を充実すべく準備に入りたいと思います。

7. WSを終えて

天候にも恵まれ、予定していた3日間のセッションすべてを終えることが出来ました。何かとご協力いただいた参加各位にお礼申し上げます。

会場とした“湯の宿 木もれび”は事前に下見しており、運営しやすい会場であるとの確信を持って臨みましたが、参加メンバの評価は私の予想を上回るものでした。議論に集中できる会議室、疲れを癒してくれる多数の温泉、名物近江牛のステーキとしゃぶしゃぶ料理、そして従業員の木目細やかなサービス等々、どれをとっても十分な評価を与えられるものでした。



また、周辺散策の地として坂本にある山王総本宮日吉大社を選びました。およそ2100年前に創祀さ



れた全国日吉神社の総本宮です。東本宮本殿があいにく修復工事中でしたが、工事現場を見学できるように工夫されており、めったに見れない修復工事を見ることができました。境内はとても広く、蔽かて心が洗われるようでした。

日吉大社を訪問する前に近くの本家鶴喜蕎麦で昼食をいただいています。築130年近い母屋はとてもおもむきがあります。



各自、食べたいお蕎麦を注文して満足した様です。

教育分科会主催のワークショップの特徴は、基調講演や主題に縛る発表ではなく、参加者が日頃の活動において課題や疑問に思っていることを持ち寄って、参加メンバから意見をいただく課題解決型であるということです。初参加の廣重さんにとっては変則さが奇異に感じられたかもしれませんが、今年もその意味では十分機能したと思います。夕食の懇親会でアルコールが入っても、さっさと食事を切り上げて会議室に戻る姿はとても異様です。それに飽き足らず部屋に戻って深夜までオフレコセッションが続くのは異様を通り越しています。お陰で本音で語り、オープンにはできない？貴重な情報を仕入れることが出来ました。これが中毒になる理由なんでしょう。

会議室はLAN端子が提供されているタイプだったので、アクセスポイントルーターを教育分科会で購入して設置しました。多数のメンバがネットワークに接続することができ、しかも高速かつ安定なのでとても重宝しました。今後、教育分科会の活動で活躍の場があることでしょう。

時折、Facebookにワークショップの状況を掲載して、多少は雰囲気味わっていただきましたが、会場外からの参加には至りません。参加者は参加費を払っていることや、スピード感のある進行の中で会場外からの意見の取り込みが可能か、議論に集中できるか等の課題があるので検討が必要です。

参加者していただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。あらためてお礼申し上げます。次年度以降も新しい風を吹き込みながら、ワークショップの運営も更なる変革を図り、教育分科会の活動が益々盛り上がることを願って結びとさせていただきます。一年後にお会いしましょう。

実行委員長 牧野 憲一

8. ワークショップ風景



ゆったりとした会議室



部屋でも深夜まで激論



鶴喜蕎麦を堪能、昼からピオーラ疑惑



鶴喜蕎麦前で記念撮影



腹ごなしに広く長い日吉大社参道を歩く



まずは西本宮楼門から参拝



東本宮に繋がる参道に怪しい人物が



東本宮で正体判明(やっぱりYさん)

9. 発表資料リンク(URL をクリックしてご覧ください) ※発表順

■君島 浩(教育設計研究所)

教育統治の現状と展望 http://sea.jp/SIGEDU/26th_kimijima.pdf

■山崎 進(北九州市立大学)

UML モデリング教育プログラムのご紹介 http://sea.jp/SIGEDU/26th_zacky.pdf

■井ノ上 憲司(熊本大学)

【掲載資料なし】

■廣重 法道(九州大学)

PBL のコミュニケーション分析 http://sea.jp/SIGEDU/26th_hirosige.pdf

■鈴木 克明(熊本大学)

大学授業設計の点検ワークシート(記述式) http://sea.jp/SIGEDU/26th_suzuki.pdf

■牧野 憲一(バルトソフトウェア株式会社)

若手エンジニアの自主性創出 http://sea.jp/SIGEDU/26th_makino.pdf

■内田 実(LBS研究スタジオ)

JICA 公募への応募落選報告 http://sea.jp/SIGEDU/26th_uchida1.pdf

【公募案件】ルワンダ 企画調査員(企画)教育・職業訓練 独立行政法人国際協力機構(JICA)
http://sea.jp/SIGEDU/26th_uchida2.pdf

■森泉 清(リコーテクノシステムズ株式会社)

技術系経営者の育成 http://sea.jp/SIGEDU/26th_morikiyo.pdf

■中山 照章(株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ)

効果的なブレインストーミング技法 http://sea.jp/SIGEDU/26th_nakayama1.pdf

頭を柔らかくするウォームアップ http://sea.jp/SIGEDU/26th_nakayama2.pdf

■米島 博司(パフォーマンス・インプルーブメント・アソシエイツ)

ISDにおける分析フェーズの保証について http://sea.jp/SIGEDU/26th_yonesima.pdf

以上